

## 30年を迎えた山高



校長 梶山 隆

山高生の目は輝いている。体育祭や文化祭などの行事に真剣に取り組む目、部活に励む姿、廊下で挨拶する元気な笑顔、高い進路目標を目指し休日や放課後などの講習に取り組む結果を残した生徒たちを見ていると、そう感じる。「山高通信」や学年通信に書かれた生徒の作文を読む。1年生ではまだまだだが3年生にもなると、極めて内容の濃い文章が書ける。高校3年間に、体育祭をはじめとした様々な行事や部活や地域でのかわりなどの熱い体験的な活動があったからこそ、その感激、感動、乗り越えたこと、仲間のことなどが生き生きと書ける。読んでいて、私も感動を共有できる。最近、大学入試で、推薦やAO入試が増えた。面接試験で高校時代に体験したことを堂々と自信をもって語り、論作文でしっかり書ける。

開校して30年、今の山高は、創立以来の良き伝統を、まさしく先輩から後輩へと身をもって引き継ぎ、新しいことにも挑戦している。毎年6月の土曜日（平成11年度以前は日曜日実施だった）、保護者や地域の方1,400名余りが観覧しての体育祭は圧巻である。本格的な練習は1学期の中間考査以降だが、前年の12月には団長を中心にスタートを切り、2月のマラソン大会（於：子どもの国）を経て団を中心に組織が作られ、3月に団別集会を行い、4月には新入生を迎え、その新入生も山高体操を身に付け3年生が中心になってのショータイムの一員となっていく。体育の授業以外でも、朝・昼・放課後・休日と練習を重ね当日を迎える。平成24年度の体育祭は6月9日（土）に行われ、朝の天気予報では雨は止むとの予報であったが全日雨であった。グラウンドは水たまりもあったが、山高体操も、組体操も、ダンスも、ショータイムも、雨だからなおさらのこと注意力を一杯に発揮して練習以上の素晴らしい完成度で行った。今年度の体育祭は伝統を引き継いだというより、伝統を乗り越えたと言ってもいいかも知れない。これらの演技では観客からの大歓声と大拍手が生徒たちに贈られた。生徒たちは困難に打ち勝つ、目の前の壁を乗り越える強い心が身についた。誇れる生徒たちがそこにいた。悪天候の中の実施で生徒にとっては寒さや不安もあり、保護者の方にはご心配をおかけしましたが、体育祭終了後は多くの生徒

が感激し、一生思い出に残る体育祭だったと語っていた。ある生徒の作文には「私はきっとこれからもたくさん辛いことや苦しいことを体験していくと思う。でもきっとこの体育祭のことを思い出せば、…（中略）…あんなに一生懸命になってがんばれたんだから、まだ頑張れるよと自分を励ますことができる」と書かれていた。

部活動では、平成22年度から24年度まで継続して、東京都から部活動推進指定校に選ばれている。推進指定校は、全都立高校191校中30校、西部では10校のみの指定である。また、アーチェリー部が、平成25年の東京国体に向け国体強化部活動と、東京アスリート育成推進校に指定された。23年度は男子が全国大会に、女子は国体選手に選ばれ、関東大会にも出場した。24年度は男子がインターハイ17位、女子が関東大会に出場し、国体候補選手も輩出している。ダンス部は平成22年度から連続で全日本高校・大学ダンスフェスティバル神戸に出場し24年度は創作コンクール部門で入選し、男子バスケット・女子バレーボール・バドミントンは都大会ベスト32、男子硬式テニスは都立校大会団体5位という成績を残している。

ところで、最近では地域の方々や関係機関とも連携して、団地の夏祭り・防災訓練・クリスマス会・ロープワーク講習会、町田市総合防災訓練、地域のどんと焼き、保育園体験、特別支援学校での吹奏楽演奏などに、生徒会や部活や有志の生徒が参加・協力している。演劇部の公演や茶道部の茶会に地域の方をお招きしたりもしている。町田総合高校の生徒と一緒に薬物乱用防止高校生会議を行い、麻薬・覚せい剤乱用防止都民大会（於：都庁都民ひろば）で観客2,000名を前に学習成果として演劇発表も行った。特に平成23年3月11日の東日本大震災以降、生徒には地域貢献をしたいという機運が高まっており、これらの地域などにかかわる活動に積極的に取り組んでいる。平成24年3月21日には、2年生全員が、山崎団地8街区管理組合・自主防災会の方々、たかね第二保育園の先生・子供たちと協力して、地域防災協力体験に初めて取り組んだ。

最後に、これまで本校をつくり支えていただいた多くの皆様に深く感謝を申し上げます。